

令和元年度 第2回 家庭教育学級セミナー

子供のために育もう豊かな心と豊かな体

# リラックス・ピアノコンサート

～筒井一貴先生による音楽の処方箋～



令和2年1月11日（土）  
11：00～12：15

喜多見中学校  
第2音楽室

古典鍵盤楽器奏者  
筒井一貴先生



## フィッシャー 組曲集『音楽のパルナス山』から「オイテルペ」

組曲集『音楽のパルナス山 (Musicalischer Parnassus)』はギリシャ神話に登場する9人の芸術の女神を冠した9曲の組曲からなり、この「オイテルペ (Euterpe)」は6番めの組曲です。オイテルペは笛を持つ叙事詩の女神。待合のひとつごのために、岡本の松本記念音楽迎賓館のフレンチ・チェンバロで録音しました。

## チャイコフスキー 『四季 op.37a』から、一月「炉ばたにて」

「ロシア詩人の各月の詩を元に12か月を音楽で描写する」という、ロシアの音楽月刊誌の企画用に作曲されました。和やかな夜の炉ばたで、暖炉の消えかかる残り火をイメージしたプーシキンの詩より。暖かくまどろむような優しい冬の情景と過ぎ去りし日々への感傷が詠われているようです。

## バッハ 「フランス組曲第5番」から、アルマンド・ガボット

バッハの時代には踊りの音楽を数曲集めた「組曲」という形の音楽が多く作られました。この曲はもともと歌手である二人めの妻（一人めは死別）アンナに贈った曲集の中の一つで、親しみやすく優雅な曲調でまとめられています。

## モーツァルト ロンド 二長調 K.485

モーツァルトの時代は音楽が軽く明るい「ギャラント」な方向へと移り変わっていった時代で、いかにも明るく快活なメロディーが繰り返して楽しめる「ロンド」という形式で書かれています。

## グラナドス 「12のスペイン舞曲集」から、

### 第2曲 オリエンタル

### 第5曲 アンダルーサ

グラナドスはスペインのカタルーニャ地方出身。詩情と情熱に満ちた、いわゆるスペイン情緒溢れる作品を数多く作曲しました。オリエンタルでは静かな哀愁、アンダルーサではフラメンコ・ギターを思い起こさせるリズムや書法が用いられており、ラテンな音楽の色気と情熱を感じていただけるでしょうか。

## ベートーヴェン ピアノソナタ第8番「悲愴」から、第一楽章

ベートーヴェンが30歳近い頃の作曲。3大ピアノソナタとして有名な作品のなかの1曲です。耳が聞こえにくくなってきた時期の作品で、彼の苦悩や情熱が激しく聴き手に伝わってくるようです。いわゆる「ベートーヴェン的な難しそうなイメージ」らしい曲と言えます。

## ボンセ 間奏曲第1番

ボンセは「エストレリータ (小さな星)」で有名なメキシコ生まれの音楽家です。メキシコで話されている言葉はスペイン語、いかにもラテン系音楽らしい、甘く官能的でドラマティックな世界をお届けします。

## ドビュッシー 夢

ドビュッシーは100年ほど前のフランスで、絵画でいうと印象派に相当するような新しい音楽を書いていました。時は万博の時代、人間の周りの環境が変わり始めた時期で、音楽も形式に囚われずに色彩的で心象的なものへと変化していった時代です。儂い夢が色彩豊かに広がっていく、夢見心地で幻想的な風景をリラックスしてお楽しみください。

## ショパン 舟歌 op.60

ピアノの音楽といえばショパンを外すことはできません。この曲はショパン最晩年の傑作で、ゴンドラが進むにつれて風景がドラマティックに変化してゆくような水の都ヴェネチアの情景を描いています。冬を忘れて、暫し光溢れるヴェネチアへ小旅行をいたしましょう！

## バッハ 主よ、人の望みの喜びよ

バッハの時代は教会が力を持っていた時代です。バッハも教会で働いており、教会のための音楽を作曲する事が大切な仕事でした。そのための音楽からカンタータ147番の終曲を、マイラ・ヘスによるピアノ編曲版で。魂が浄化されるような、安らかな喜びに満ちた美しい曲です。

世田谷区喜多見中学校

校長 山田 勝基

PTA会長 小野 貴子

家庭教育学級委員会

委員長 前原 久美子

## 令和元年度 第2回家庭教育学級開催報告書

「子供のために育もう 豊かな心と豊かな体」

令和2年1月11日(土) 11:00~12:15 第2音楽室にて、  
古典鍵盤楽器奏者、筒井一貴先生のピアノによるコンサートを開催いたしました。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

テーマ リラックス・ピアノコンサート ～筒井一貴先生による音楽の処方箋～

参加者 山田勝基校長先生 藤井朱世副校長先生

世田谷区社会教育指導員 飯塚和彦先生

御来賓 6名 保護者 26名 計35名

### ★筒井先生のお話(抜粋)★

単純に機械で音を再生すると雰囲気は変わりません。が、小規模コンサートでは奏者が目の前で奏でることによって、人間と人間がやりとりをしながら温かさ、柔らかさを伝えていくことができます。私はこれがとても大切なことだと思っております。ドビュッシーは西洋音楽の方向をがらっと変えた作曲家ですが、パリの万博でガムラン(バリ島の音楽)を聴いて衝撃を受け、これは!と思ったそうです。西洋の音楽を変えるきっかけとなったのが東洋の音楽であったことを考えると、やはり文化と文化のやりとり、人間と人間のやりとりが大事なんだなと思います。でもピアノやトーク、何でもそうですが、毎回慣れたところで肩透かしを食らわせられます。なかなか思うようにいかないこともありますよね。音楽と付き合うと毎回違う景色が見えます。名曲であればあるほど色んな切り口があって、切り口ごとに色んな顔があるからこそ面白いんです。

私は母校のオーケストラ部やピアノ部などの指導で長年学生たちと関わってきておりますが、段々みんな生きづらくなっているというのを感じます。これは学校現場でも難しいところではないでしょうか。これしっちゃいけないとか、守れとか、テストで点をとらなくちゃいけないとか。でもこればかりでは皆似てきてしまうような気がするんです。芸術ってそういうところではないんです。方便になります。うまいこと使い分けなきゃいけないんです。一人ひとり個性が大切だということになりますけれども、オーケストラって一人ひとりが完全に勝手にしたらまるでうまくいかない。勝手にやっちゃいけないのに、ある程度勝手にやんなきゃいけない、これが本当に大事なことだと思います。



## ★アンケートより（抜粋）★

- 音に没頭してすっきりリラックスできました 子供たちにも体験させてあげたいなと思いました
- 個性豊かな作曲家たちの特徴がわかりやすく、初めてこんなに楽しめました
- コンサートを聴いてまたピアノを弾きたくなりました
- 透き通る音色、優しい先生のトーク、演奏されているお姿に癒されました
- 生演奏を聴ける機会がなかなかないのでとても嬉しかったです
- 優しい音、重々しい音、幻想的な音、妖艶な音、色々な音に体が包まれる体験でした
- やっぱり生（ライブ） 体感は大事だと思いました
- 日常の中で、給食や登校とか、子供たちの少しの時間でも生演奏に触れて欲しいなと思いました
- 副校長先生とのコラボがとてもよかったです 是非またお願いします！
- 先生と副校長先生のハーモニーが素敵でした 生徒にもこの感動を分けてあげたいです
- トークも時代背景から教育の話まであって、勉強になりました  
特に音と同じように子供には個性があって、画一的な教育にならないように気を付けなくてはというところに深く共感いたしました
- 今後も、これからの時代の変化に対応した教育と子供の見守りを考えた教育学級をお願いします

絶妙な話術と選曲で場を和らげ、難しいと思われがちなクラシック音楽の世界を身近にしてくださった筒井先生。柔らかで温かいピアノの音色、そして中心に据えた重めの曲から徐々に心を開放させてポジティブなリラックス状態に導く、という素敵な「音楽の処方箋」をありがとうございました。

またお忙しい中色々ご協力いただき、サプライズ・アンコールでは筒井先生の伴奏と共に美しいソプラノをお聴かせいただきました藤井副校長先生に感謝申し上げます。



副校長先生の歌声とのコラボも

### 終了後、先生のひとこと

喜多見中学校の校歌は日本の誇る大作曲家、三善晃氏の作曲と知って、無理を言って聴かせていただきました。さすがは現代音楽の旗手の作品で、音に対する新しい感覚が窺える、希望に満ち溢れた素敵な校歌ですね。卒業後もずっと大切に心に残しておいてください。

今年度の家庭教育学級のセミナーは今回で終了いたしました。

1年間家庭教育学級委員会の活動にご協力いただきましてありがとうございました。